

## 社会医学系

教員数	教員等数 (人)	教授 17 (10)	助教授 11 (11)	講師 13 (9)	助手 2 (2)	技官〔準研〕 — (—)	
	異動状況 (人)	退職・転出 4 (6)	昇任 3 (4)	採用 11 (14)	学内 1 (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		111 (87)	48 (38)	199 (150)	12 (40)		
	受賞数(件)	7 (1)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	22 (19)	64.7(61.5)	50,260(47,430)		
		学内プロ	9 (7)	22.5(36.8)	7,300 (5,920)		
奨学寄附金件数・金額		8件	4,680千円	(7件	6,610千円)		
受託研究件数・金額		4件	6,716千円	(4件	17,448千円)		
受託研究員	人 (人)						
施設・設備							

・ ( ) は前年度の数値を示す。

### 1 社会医学系の活動

社会環境が心身の健康に及ぼす影響を科学的に解明するとともに国、自治体、民間企業との連携、地域住民への支援を積極的に行い、環境改善と健康向上に関する社会的要請に応えることを目標としている。具体的には以下の取り組みを行っている。

- (1) 健康と病気にかかわる現象を実証的に調査し、原因の解析により予防医学の基礎的知見を得る。社会のニーズに合わせて研究活動を活性化し、国際的共同研究を推進する。
- (2) 研究と一体化した大学院教育により専門的研究者を養成する。
- (3) 科学研究費補助金、委託研究費等の外部資金を積極的に導入する。
- (4) 看護研究の成果を医療現場に還元し、看護の水準向上に貢献する。

### 2 自己評価と課題

下記の成果をあげた。さらに行政機関等との連携を密にし、外部資金獲得等に努める。

- (1) 前年度に比較して科研費の採択件数、採択率ともに上昇し、論文・著書発表数は国内、国外ともに増加した。奨学寄附金、受託研究は若干伸びた。
- (2) 研究成果の還元
  - ア 内閣府、環境省、厚生労働省、国土交通省等の国の機関に対して委託研究、審議会参加等により協力し、有害物質の健康影響、食品安全、睡眠障害に起因する運転事故、「健康日本21」等の健康対策に貢献した。
  - イ 茨城県において生活習慣病予防や介護保険の運用等に関する相談・教育活動を行った。神栖町での有機ヒ素中毒に関する基礎研究を行った。
  - ウ 民間企業との協同による産業保健システムの構築、宇宙航空開発研究機構への提言などを通じて産学連携を進めた。
  - エ 高齢者に対する医療・保健・福祉を統合した地域ぐるみの対策を進めた。
  - オ JICAを通じて発展途上国の保健医療行政の向上に貢献した。
  - カ 法医学鑑定、精神鑑定、労災認定業務を通じて司法機関、法務省等に協力した。
  - キ 定期的なフォーラムの開催により地域の看護職者・住民の啓蒙を行った。
  - ク 産業医学研究会の開催により茨城県医師会の生涯教育に貢献した。

### 3 その他特記事項

医療科学類の設置に伴い看護学分野の教官が25名に増加した。